

7

誰もが
居心地の良い
歩きたくなるまち



概要

誰もが安心して快適に楽しむことができる魅力ある都市づくりを推進していくことが求められています。歴史や文化等の地域特性や地域課題、地域資源を踏まえつつ、個性と魅力あふれる特色ある地域拠点を創出します。

さらに、池袋駅を中心に各地域の魅力あるスポットを結び付けることで、区内全体の回遊性を高めるとともに、交通安全の普及啓発を推進することで、居心地の良い、魅力あふれる、ウォークブルな都市空間を形成します。

各地域において、地域の人々に親しまれる、特徴を生かした公園の再構築を進めます。

誰もが
歩きたくなる
居心地の良い
まち

① 地域の特性を生かした都市づくり

② 池袋駅周辺地域の再生

③ 交通安全対策の推進

④ 魅力ある公園づくり

都市再生
景観
交通・道路
公園



施策（7-①）

地域の特性を生かした都市づくり

目指す姿

- 地域の特性を踏まえた、安全・安心かつ、快適な暮らしと魅力・活力のあるまちとして、区民が誇りや愛着を持つことができる幸福度の高い都市となっている。

現状・課題

公民連携による持続可能な都市づくり

- これまで本区が、文化芸術の発信拠点である Hareza池袋や、特色ある池袋駅周辺の4つの公園等、地域の拠点となる公共施設を整備してきた効果もあり、民間による都市再生が進んでいます。
- 今後は、これらの資源を活用しつつ、まち全体で、利用する人にとって居心地の良い魅力ある都市づくりを、公民連携により推進していくことが求められています。

個性ある美しい都市空間の創出

- 本区には駒込のソメイヨシノや巣鴨の地蔵通り、ユネスコ未来文化遺産の雑司が谷、南長崎のトキワ荘等、地域それぞれに魅力あるスポットが点在しています。
- 既存ストックの有効活用等、個性ある地域に磨きをかけるとともに、利便性や回遊性を高められるよう、地域間を結びつける空間整備やネットワークの構築が必要です。

取組方針

「人」が主役の都市づくり

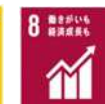
- 多様な主体が集まり、イノベーションを生み出す交流機能、文化やまちのにぎわいを演出する発信機能、誰もが自由に休憩できる滞留機能等、まちの快適性が向上する機能を備えた都市空間を公民連携で創出します。
- 施設整備などハード面の事業を進める際は、それに関わる防災や観光、子育て、福祉、DXなどのソフト面の取組と行政分野の枠組みを超えて連携することで、住む人や訪れる人の視点に立った安全で利便性の高い都市づくりを推進します。

特色ある地域の創出とつながりの強化

- 歴史や文化といった地域特性や、施設等の資源、良好な景観、地域固有の課題等を踏まえながら、個性と魅力があふれる特色ある地域を創出します。
- 道路の景観舗装化やバリアフリー化、四季の彩りを感じる植栽の配置等により、各地域をつなぐ快適な歩行者ネットワークを整備します。
- 民間建物の低層階ににぎわう施設などを誘導し、歩行者のさらなる利便性や快適性等の向上を図ります。また、まちづくりと連動して、副都心線東池袋新駅の設置に向けて関係機関と協議します。
- 交通弱者も快適に移動できるよう、公共交通を利用しづらいエリアの解消に向けて新たなモビリティの導入も含めて検討し、区全体の地域公共交通のあり方について計画を策定します。また、既存公共交通の維持確保を図るとともに、誰もが公共交通を利用しやすい環境の整備を推進し、まちの価値や魅力を一層高めます。



指標		現状値	目標値				
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
活動指標	地区計画の区域面積【ha】	368.0 (2023年度)	368.0	369.0	369.0	369.0	369.0
成果指標	「地域特性にあわせたまちづくりが進み、快適な街並みが生まれている」について肯定的な回答をする区民の割合【％】	30.5	37.5	39.0	40.5	42.0	43.5



施策（7-②）

池袋駅周辺地域の再生

目指す姿

- 池袋駅を中心として、様々な機能（「文化芸術」、「観光」、「商業」、「業務」、「住宅」、「宿泊」、「教育」等）が融合し、国内外の多様な人を呼び込み、にぎわいと活力が生み出されている。

現状・課題

歩行者の回遊性向上

- 池袋駅は一日200万人超が利用する巨大ターミナル駅ですが、利用者の約75%が乗換目的であることに加え、来街者の多くが駅に隣接した商業施設等に集中しています。また、鉄道等により、まちが東西に分断されている現状があります。
- みどりに富み、防災力も備えた公共空間を拡充させ、回遊性を向上させる必要があります。

新たなにぎわいの創出

- 池袋駅周辺は、様々なにぎわい活動が行われており、今後さらに地域特性に応じた魅力あるまちづくりを持続・発展させていく必要があります。
- そうした中、日常的に多くの人々が訪れ、長く滞在してもらえよう、常にまちのにぎわいと活力を創出し続けることが必要です。

取組方針

ウォーカブルな都市空間の形成

- 池袋駅周辺地域では、地区計画や駐車場地域ルールを活用した民間都市再生事業等を通じて、様々な都市機能の集積とともに、歩行者ネットワークの強化や全世代に使いやすい空間整備を促進し、人・アート・カルチャーが交差する滞留・にぎわい拠点の創出を誘導します。さらに、防災性の強化や環境への配慮とともに、潤い豊かなみどりを増やし、都市の魅力や価値を向上させた新たな池袋を発信します。
- 池袋駅では、東西を繋ぐ自由通路（デッキ等）や、駅からまちへ人を誘う「駅まち結節空間*」の整備、交通結節点*の機能強化を、再開発事業等と連携して進め、利便性や回遊性の向上を図るとともに、災害対応力の強化を促します。また、環状5の1号線の開通を見据えた東口駅前広場の再編（クルドサック化*）の検討、再開発事業による西口駅前広場の再整備・歩行者空間の拡充を推進し、駅全体を安全・安心で人が主役のウォーカブルなまちの中心として再生させます。

公民連携によるまち全体の魅力向上

- 池袋駅周辺のオープンスペースにキッチンカーやストリートファニチャー*等を設置し、様々な体験や交流ができる居心地の良い都市空間を創出するなど、地域の価値を高めるエリアマネジメント*団体の主体的な活動を支援します。
- 地域主体・民間主導で池袋のまちを育て、価値を共有していくための協働・連絡体制である「池袋エリアプラットフォーム*」に参画し、まちづくりに興味・関心のある多様な主体と連携を図りながら、池袋駅周辺地域のさらなる成長と価値の向上を目指します。



指標	現状値	目標値				
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
成果指標 「池袋周辺で、新宿、渋谷などない魅力あるまちづくりが進んでいる」について肯定的な回答をする区民の割合【%】	43.4	51.0	54.0	57.0	59.0	61.0
成果指標 エリアマネジメントの団体数【団体】	2 (2023年度)	3	3	3	4	5



施策（7-③）

交通安全対策の推進

目指す姿

- 交通安全の気運醸成と、歩行者や自転車の道路交通環境の整備が進み、安全で快適に移動できる街となっている。

現状・課題

公民連携で進める交通安全

- 区は警察や関係団体と連携・協力し、交通安全上、必要不可欠な路面標示、カーブミラー等を配置するとともに、春と秋の交通安全運動やキャンペーンを行っています。依然として、区内で多くの交通事故が発生し、その約半数は自転車乗用中の事故です。
- 交通事故を減らし、死者をゼロにするため、電動キックボード等の新たなモビリティの注意喚起に努め、特に子どもや高齢者に対する啓発を進める必要があります。

老朽化が進む駐輪場

- 救急活動への妨げや、交通事故の要因にもなる自転車の放置を防ぐ区立駐輪場は、老朽化が進み、自転車の大型化や電動化への対応が不足しています。このため区民ニーズを捉え、誰もが使いやすい施設へ整備する必要があります。
- また、自転車を活用して楽しい毎日を過ごせる、きっかけづくりが必要です。

取組方針

新たなモビリティに対応した交通安全の機運醸成

- 国や東京都、警察と共に、地域に根差した効果的な交通安全対策を推進します。
- 年間を通じて、警察、関係団体、学校、鉄道事業者、企業等と連携し、電動キックボード等の新たなモビリティにも対応した交通安全の普及啓発を、子ども・若者をはじめとした区民に行います。
- 子育て世代、高齢者向けの研修会を開催し、交通ルールの遵守・マナー向上、自転車損害保険等の加入や、高齢者の自動車運転免許の返納を呼びかけます。
- 自転車交通事故で死亡した方の多くは、頭部を損傷していることから、自転車用ヘルメットの着用を促すため、全年齢対象の購入補助制度の活用を呼びかけます。
- 来街する外国人にも交通ルールやマナーを理解してもらうため、多言語を用いて、冊子や区ホームページ、SNSによる情報発信を行います。

誰もが使いやすい駐輪場の整備

- 駐輪場は、自転車の大型化や電動化に対応し、誰もが使いやすい施設として再整備を進めます。また、放置自転車の多い地域周辺のビルテナントや店舗等に放置防止の協力を促し、自転車の短時間放置を抑制します。
- 自転車（民間シェアサイクルを含む）の安全・安心な活用を促進して、区民の健康と暮らしの質の向上、日常生活の快適さや、活動範囲の拡大につなげます。



指標	現状値	目標値				
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
成果指標 年間（1月～12月）の区内の自転車乗用中の交通事故発生件数【件】	307 (2023年度)	300 (2024年度)	290 (2025年度)	280 (2026年度)	270 (2027年度)	260 (2028年度)
成果指標 交通安全研修会（子育て世代・高齢者研修会）等への参加人数【人】	1,037 (2023年度)	1,045	1,050	1,055	1,060	1,065



施策（7-④）

魅力ある公園づくり

目指す姿

- 近くに好きな公園があり、子どもから高齢者まで、区民が「自分たちの公園」として活用している。
- 公園のリノベーションが進み、地域ごとに特徴のある公園が利活用されている。

現状・課題

多様化するニーズに応える公園づくり

- 古い遊具が残ったまま、あまり利用されていない公園がある一方、ボール遊びや、子どもがのびのび遊べる場所がほとんどありません。
- 多様化するニーズに応えられるよう、公園も時代とともに変化する必要があります。
- 身近なみどりの資源を有効活用するため、誰もがいつでも憩うことができ、利用したくなる公園が求められています。

地域コミュニティの拠点となる公園の活用

- コロナ禍が明け、公園で様々な活動が行われるようになってきました。様々な年代の人が思い思いに公園を利用しています。
- 公園を区民が自分たちの財産として、自分たちが主体的にルールを決めながら、地域コミュニティの拠点として活用していくことが望まれます。

取組方針

地域の特徴を生かした公園づくり

- 小規模な公園が多い豊島区の特性を前向きにとらえ、公園の再構築を進めます。
- 子どもから高齢者まで、様々な世代の意見を幅広く聞きながら、憩い・遊び・交流など、公園の用途にメリハリを付け、特徴のある公園としてリニューアルします。
- 障害の有無や年齢に関係なく、誰もが安全に楽しむことができる公園を目指します。
- 公園のみどりによる、ゆとりや潤いを感じる空間として、環境の質の向上を図りながら、身近なみどりを自然環境資源として次世代へ引き継ぎます。

地域の人々に愛され、親しまれる公園を育てる

- 身近な公園を、子育て・地域コミュニティ・憩いの場等、地域の特性に応じた利活用ができるように地域一体となって取り組みます。
- 区民による公園の清掃活動や花壇の維持管理等を通じて、地域コミュニティの活性化を促進し、身近な公園への愛着心を醸成するとともに、各公園での地域主体のイベントをバックアップします。
- 地域住民や民間事業者・学生等の多様な意見を地域ルールとして反映します。
- 池袋駅周辺の4つの公園を核として、公民連携で様々なイベントを実施します。また、イベント内容をホームページやSNSでわかりやすく配信することで、各公園の回遊を促し、まちの魅力とにぎわいを創出します。



指標	現状値	目標値				
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
成果指標 「近くに好きな公園がある」について肯定的な回答をする区民の割合【%】	40.7	41.2	41.7	42.2	42.7	43.2
活動指標 公園活用協定やみどりの協定等を締結し、公園等で利活用を行う団体数【団体】	54 (2023年度)	58	60	62	64	66

